（4） ズッキーニ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.過湿にならないよう、換気をよくする。 2.被害果は除去して処分する。	発病前から	2 10･1	ロブラール水和剤 （混）ゲッター水和剤
2 うどんこ病 *Oidium citrulli* *Oidium* sp. *Podosphaera xanthii*	1.窒素肥料の過多は本病の発病を助長するので、施肥基準に従って適正に施用する。 2.昼夜の温度差が大きくなると発病が多くなる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ストロビーフロアブル、アミスター20フロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 2.パンチョＴＦ顆粒水和剤は幼苗期には、濃緑化症状及び生育抑制が生じることがあるので使用しない。	発生初期	1 11 11 ー M5 U6･3	トップジンＭ水和剤 アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル サンヨール ダコニール１０００ （混）パンチョＴＦ顆粒水和剤
3 アブラムシ類 モザイク病 （CMV WMV ＺYMV ＰＲＳＶ）	1.周辺雑草を防除する。 2.飛び込み防止のため、育苗床は防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 3.圃場周囲にシルバーテープをはる。 4.シルバーマルチをする。	定植時	4A 4A 9B	アルバリン粒剤 スタークル粒剤 チェス粒剤
		発生初期	3A 4A 4A 4A 9B 23 9B	アディオン乳剤 バリアード顆粒水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 チェス顆粒水和剤 モベントフロアブル コルト顆粒水和剤
4 オオタバコガ	1.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット(４㎜目合以下)で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。	若齢幼虫期	6	アファーム乳剤
5 アザミウマ類	1.苗で本圃に持ち込まない。 2.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 3.シルバーマルチをする。 4.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 5.飛び込み軽減のため、ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはる。 6.周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.被害植物や雑草は除去後、土中に埋没するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。	定植時	4A	ベストガード粒剤
6 ハモグリバエ類	1.外部から苗を導入する際には虫の有無に注意する。 2.マルチ栽培は土中での蛹化防止に有効である。 3.被害植物や雑草は除去後に土中に埋るか、ビニール等で密封し半月程度放置する。	発生初期	28	プレバソンフロアブル５
7 コナジラミ類	1.苗による持ち込みに注意する。 2.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 3.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。	定植時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	23 9B	モベントフロアブル コルト顆粒水和剤
8 ネコブセンチュウ	1.水田に転換可能な畑では、２～３年に１回の割合で水田に戻す。 2.苗からの持ち込みを防止するため、センチュウ類や病害のおそれのない用土で育苗する。	定植前	1B	ネマトリンエース粒剤